

アコと人生…この人にインタビュー 《第9回=その2》 「中村 健さん」

—承前—

話が前に戻りますが昭和4年の頃、日本は今より更に深刻な不況に陥りました。父は浅野セメントという会社を辞めて大塚の家を処分し、立川で飛行将校相手の旅館業を始めました。当時、立川は陸軍飛行五連隊を始め中島飛行機製作所、陸軍衛戍（えいじゅ）病院の他、軍の諸施設が設置され軍都として発展しておりました。

私が感受性の強い中学生の頃、明日は戦場で死ぬかもしれない若い青年将校たちが芸者を上げてドンちゃん騒ぎをして泥酔している姿を見て、軍人はいやだ、戦争は真つ平ご免だと心底思っていました。

《旧制中学校に入学の頃》

日本の大陸への侵略、野望が次第に高まり昭和6年9月、関東軍によって満鉄線路が爆破されました。攻撃しておきながらこれを口実に日本軍は総攻撃を開始（満州事変）しました。これをキッカケに日本軍は大陸への侵攻を一層深めてゆきました。

昭和8年には国連が日本軍の満州からの撤退勧告案を可決しましたが、松岡代表はこれに従わず国連を脱退し日本は孤立してゆきました。

翌昭和9年、私は旧制中学校に入学（12才）、この年に日本の侵略の結果として満州国が生まれました。

当時戦争に反対したり軍事行動を批判したりした長野県の教員の一斉検挙が始まり、65校で140人近い教員が検挙されました。これらの行為を取り締まる治安維持法の改正や軍の統制も一層厳しくなってきました。文部省に思想局が設置されたり出版法が改正されて、皇室の尊厳を冒瀆したり安寧（あんねい）秩序を妨害する行為に対し取締りが強化されるようになってゆきました。

《2・26事件起きる》

昭和10年～11年（13歳～14歳の頃）この年の大きな事件として皇道派の影響を受けた青年

将校が下士官兵1400名を率いて斎藤実内大臣、高橋是清蔵相らを殺害するいわゆる2・26事件が起きました。この日の東京は朝から大雪で、

私たちは学校の帰り遅くまでそり遊びなどして暗くなって家に帰って父親に大声で叱られました。東京はこの日



戒厳令が布告されて大変な騒ぎのようでした。

（写真は決起直後の反乱軍将兵昭和11年2月26日 出典：フリー百科事典『ウィキペディア』

《日中戦争がはじまる》

昭和11年（中学2年の終わりの頃）2・26事件に関しその後陸軍軍法会議で17名に死刑の宣告がなされました。

この年は国の政策として大陸への地歩の確保、南方への進出軍備の充実など、侵略の地歩固めが着々と進められて行きました。

昭和12年の大きな出来事として日本と中国との間に日中戦争が始まりました。一方国際社会的に見て、国連の総会では日本の行動を非難する決議が採択され日本は諸外国からのけ者扱いされる状況になってきました。また、一方日本軍は南京を攻撃しここを占領し多くの中国人民や婦女子を暴行虐殺しました。

昭和13年（私が中学4年の終わる頃）宮中で御前会議が行われ支那事変処理の根本方針を決定しましたが、その中で日本は中国に対して平和交渉を打ち切る通達を出し「中国政府を相手とせず」との声明を出し戦争を継続する意思を表明しました。

この年の4月に国家総動員法が公布され国を挙げて1つの方向に邁進する体制が敷かれました。

《安らぎを求めて、親に頼んでアコーディオンを買ってもらう》

昭和14～5年は日本が米英に対し宣戦布告す

る前の重苦しい時代でした。昭和 14 年早々に政府は国民精神総動員強化方策を決定し、国を挙げて心を一つにして戦いに備えようという通達を出しました。そしてその年日本軍は海南島に上陸しました。

しかし内地ではそれほど緊迫した気分はなく、私は 7 月に中学の友達と



富士登山や富士五湖でキャンプをしたり、登山中知り合って仲良くなったサージペトロフという白系ロシア人の男の兄弟と 2~3 年親しく交際していましたが戦争が激しくなって帰国し消息が絶えてしまいました。

また、この年の 6 月に車の免許をとりました。今と違って随分簡単に取れたような気がします。2~3 年郊外をドライブしたりしましたが、中国大陸で負傷して帰国した体育の先生が「中村君、車の免許を持っていて兵隊にとられると、輸送隊に回されかねない。軍のトラックを運転すると真っ先に敵の攻撃目標にされるから返した方が良いよ」と言われ、17 年の 9 月には入隊するかもしれないという心配もしていたのでその前に返納することにしました。

緊迫した世相でしたが安らぎを求めてこの頃、親に頼んでアコーディオンを買ってもらいました。たぶんこのご時世に、私の年代でアコーディオンなんか弾いている中学生は他にいなかったと思います。



(次号に続く)

【音楽で視る参考資料】出典：ハンドブック世界の愛唱歌 長田暁二著 ヤマハミュージックメディア出版

●1926 年 (大正 15 年)

『いとしのクレメンタイン』(雪山讃歌)

♪雪よ岩よ われらが宿り~

大正 15 年 1 月、旧制三高(現京都大学)の山岳部の創成期メンバー(西堀栄三郎、四手井綱彦、戸野弥二郎、渡辺漸)4 名が群馬県の鹿沢で登山

中に吹雪に遭遇し、老舗旅館紅葉館の一室に閉じ込められた。その時、手持ちぶさたの 4 人は退屈まぎれに誰言うとなく、英語教師のエルグーから教わっていた「いとしのクレメンタイン」のメロディーに合わせて、登山愛好家の心情を詠った山岳部の部歌を作ろうと言いだした。こうしてできたのが「雪山讃歌」である。替え歌歌詞の代表は、後に第 1 次南極観測隊越冬隊長として知られた西堀栄三郎になったが、音楽著作権使用料は自分では一銭も取らず、京大山岳会にすべてを寄贈している。

ダークダックスの喜早哲は慶応義塾大学のとき、志賀高原にスキーに行き、バスガールが鼻歌混じりで歌う「雪山讃歌」を耳にした。こんな山奥まで浸透しているなら“いけるぞ!”と直感した彼は 1958 年(昭和 33 年)7 月にテイチクから発売されたアルバム『世界ピクニックソング集』の中に収録、1959 年の NHK 紅白歌合戦で歌うと、ダークの新鮮で美しいハーモニーはアルピニストやスキーヤーだけに限らず、たちまち満天下の若者たちの心をとらえて大評判になりヒットしたのである。

●1928 年 (昭和 3 年) 『ロンドン橋』

♪ロンドン橋が落ちる 落ちる 落ちる~
ロンドン橋はイギリスの首都ロンドン市内を北と南に分けるように流れるテムズ川に架かっている。その橋は解体されて、今はアメリカで修復保存されている。今架かっているのは 1973 年に出来たもので、ステンレスの立派な欄干だが、味も素っ気もなく感じられる。この歌詞のようにいろいろな材料で橋を造っては流され落ち、また造っては流され落ちると言うことが 12 世紀から 16 世紀に掛けて繰り返された。

昭和 3 年、高田三九三は英国製のピアノ伴奏のレコードを聴いて採譜し、昭和 12 年 9 月、彼の訳詞を古筆愛子が歌いビクターでレコーディングされた。折からの戦争のあおりを受け、敵性音楽はけしからんとにらまれ、軍当局から発売禁止の憂き目を味わった。今では幼稚園や保育園の遊戯歌として歌い踊られており全国的に浸透している。

《文責：乙津》